

Stride With Challengers ～木村昇吾選手、スリランカの名門チームでのプレーを再開～

当社は「挑戦する個人・企業を応援し、すべてのステークホルダーと感動体験を共有し、より良い世界を創造する」という企業理念のもと、元プロ野球選手でクリケットの世界最高峰インド・プレミアリーグを目指す木村昇吾選手とスポンサー契約を結ぶほか、陸上棒高跳びで東京オリンピック出場を目指す来間弘樹選手を社員として採用しています。アスリート達の挑戦が、従来の企業活動では得られない異質の感動体験をもたらしてくれることを信じ、これからともに歩んでいきたいと考えています。

元プロ野球選手の木村昇吾選手は現役引退後、クリケット選手へ転身し、2019年、2020年と日本代表選手に選出されるなど、日本を代表するクリケット選手として活躍しています。最終的な目標である世界最高峰のインド・プレミアリーグで活躍するための第一歩として、プレースタイルや環境が似ているスリランカでの挑戦を選択し、2019年には練習生として、スリランカの名門チーム「シンハラスポーツクラブ」（以下、SSC）に参加しました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響で、チームからの離脱を余儀なくされていましたが、2021年3月、1年ぶりにチームに合流し、目標への挑戦が再スタートしました。

2021年4月にはクラウドファンディング／CAMPFIREの応援プロジェクトで目標を上回る支援を集めたほか、NHKのBS1「BS国際報道2021」に出演するなど、木村選手への注目は高まっています。

ストライダーズは2014年より投資事業を通じて、スリランカの持続可能な開発に関わってきました。今後も木村選手の挑戦を応援しながら、長年のパートナーとして投資事業をさらに強化するとともに、パンデミック終息後の観光振興やスポーツツーリズムのプロモーションなどにも力を入れてまいります。



木村昇吾 海外クリケットプロリーグへ挑戦

STRIDERS REPORT

2020. 4. 1～2021. 3. 31



STRIDERS

株式会社ストライダーズ
第57期 株主通信
証券コード 9816



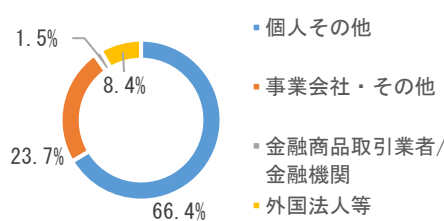
Stride With Challengers

株式関連情報

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	毎年3月末日
剰余金の配当の基準日	毎年9月末日、毎年3月末日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 フリーダイヤル：0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)
同連絡先	

■株式分布状況・株式の状況



発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式総数	8,912,089株
単元株式数	100株
株主総数	4,496名

※1 当社は、自己株式を425,139株保有しておりますが、上記大株主からは除外しています
※2 株主分布状況における比率、大株主の持株比率は自己株式（425,139株）を控除して計算しています
(2021年3月末日現在)

■大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
新興支援投資事業有限責任組合	1,529	18.02
早川 良一	483	5.70
KGI ASIA LIMITED-CLIENT ACCOUNT	356	4.20
株式会社ジャパンシルバークリケット	311	3.67
福光 一七	181	2.14
ABN AMRO CLEARING BANK N.V., SINGAPORE BRANCH	176	2.08
大阪ランド株式会社	100	1.18
J. P. MORGAN SECURITIES PLC	88	1.04
森川 いくよ	74	0.88
山本 文雄	70	0.83

TOP MESSAGE



代表取締役社長
早川 良太郎

サステナブルな循環型社会への変容に対して、企業として責任ある役割を果たす

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈りいたします。

さて、当期については新型コロナウイルス感染症の影響が国内外で長期化する中、当社グループは国内外における新規投資機会の獲得活動を継続する一方、既存事業における経営の効率化、ニューノーマルの社会に適應すべく事業戦略の検討等に取り組んでまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、ホテル事業や海外事業で需要減の動きが継続したこと、不動産売買取引が対前年同期比で大きく減少したことにより、売上高と営業利益は大きく減少し、経常利益と当期純利益については減少幅こそ縮小したものの減益となりました。

来期については、新型コロナウイルス感染症の収束が依然として見通せない中ではありますが、各事業セグメントにおいて、コロナショックからの回復を見据えて、業績回復に向けた取り組みを強化してまいります。また、現在、2030年に向けた「持続可能な開発目標」や、サステナブルな循環型社会への変容に対して、企業として責任ある役割を果たすことが重要になってきていることも踏まえ、不確実で変化が早い時代において、柔軟かつ機動的に適應できる人材の育成や外部人材との連携を強化することで、既存事業のさらなる価値向上と新規事業の創出にも努めてまいります。

なお、先般ご案内のとおり、2020年9月末日の株主様へのホテル利用券の贈呈をもって、株主優待制度を廃止させていただきました（ただし今回限りの特典として、2021年3月末現在で当社株式を200株以上保有の株主様には、クオカードを同封しております）。今後は安定的な剰余金の配当により、株主還元の充実を図ってまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

会社情報

■会社概要

社名	株式会社 ストライダーズ（英語名：Striders Corporation）
本社	〒105-0004 東京都港区新橋5-13-5 新橋MCVビル8階
設立	昭和40年2月
資本金	1,585百万円
事業内容	不動産事業、ホテル事業、海外事業、その他
上場市場	JASDAQ（コード番号：9816）
連結売上高	10,482百万円（2021年3月期）
連結従業員数	205名（2021年3月末日現在）

■企業理念

挑戦する個人・企業を応援し、すべてのステークホルダーと感動体験を共有し、より良い世界を創造する

■コーポレートスローガン

Stride With Challengers “挑戦者達と共に闘歩する”

■役員一覧

代表取締役社長	早川 良太郎
取締役会長	早川 良一
常務取締役	宮村 幸一
取締役	梅原 純
社外取締役	鈴木 泰
常勤監査役	吉澤 生雄
監査役	亀井 孝衛
監査役	本田 琢磨



(2021年5月末日現在)

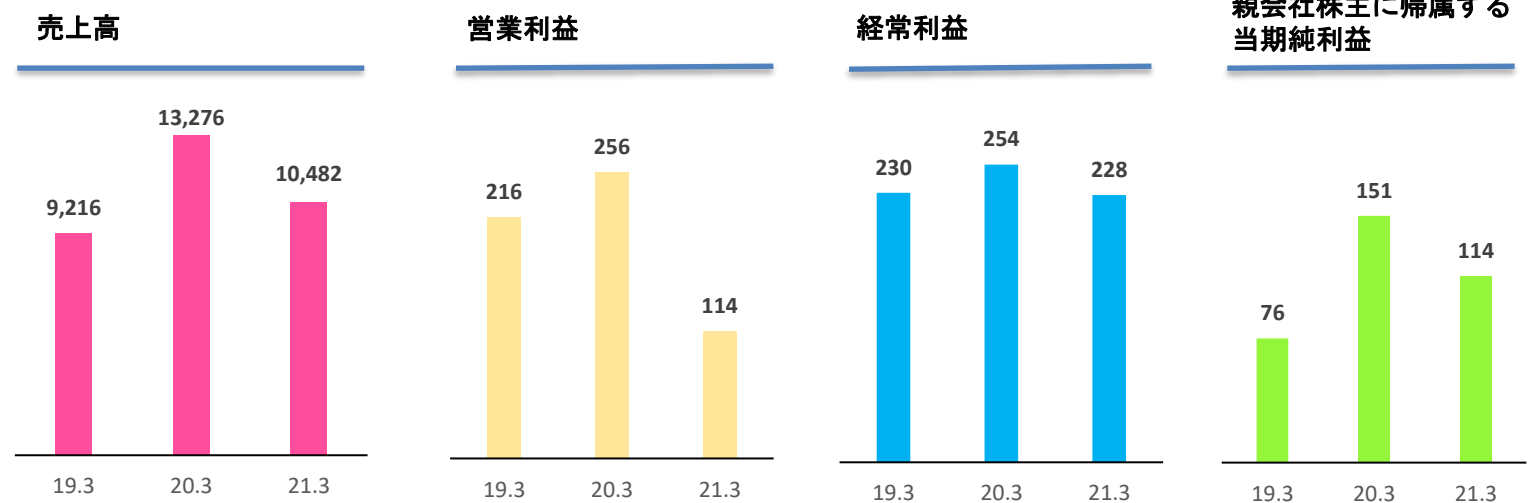
■社名・企業ロゴについて

当社の社名「ストライダーズ」には、時代に先駆け、闊歩する（「ストライド」）集団という意味が込められています。

また、企業ロゴの右上がり伸びていく線は、常に「困難に立ち向かう」「障害を越えていく」という精神を表現しています。

決算ハイライト（単位：百万円）

2021年3月期決算においては、売上高が前期比21.0%減の10,482百万円、営業利益は前期比55.3%減の114百万円、四半期純利益は前期比24.5%減の114百万円を計上しました。



貸借対照表・キャッシュフロー計算書について

✓ 国内外の新規投資機会獲得の備えとしてのキャッシュポジションの厚みを拡大

(百万円)	2020.3	2021.3	増減額
資産合計	5,000	5,230	+230
流動資産	2,927	3,367	+440
固定資産	2,073	1,862	△211
有形固定資産	1,383	1,317	△66
無形固定資産	183	126	△57
投資その他の資産	506	418	△88
負債合計	2,866	2,909	+43
有利子負債	1,366	1,591	+225
純資産合計	2,133	2,321	+188

(百万円)	2020.3	2021.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	311	297
投資活動によるキャッシュ・フロー	△144	107
財務活動によるキャッシュ・フロー	8	289
現金及び現金同等物の増減額	176	692
現金及び現金同等物の期首残高	1,814	1,990
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,990	2,682

2022年3月期について

✓ 新型コロナウイルス感染症による影響が1Q～2Qは拡大、3Qで減速、4Qで通常になる前提

(百万円)	2022.3 通期予想	前期比
売上高	10,146	△3.2%
営業利益	20	△82.5%
経常利益	120	△47.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	77	△32.6%

✓ 配当予想は今期と同額

(円)	2021.3	2022.3 予想
1株あたり年間配当金	3.00	3.00

ストライダーズグループについて

当社グループは、事業投資・不動産事業を軸に日本、シンガポール、インドネシア、スリランカなどの島国を中心に事業展開してまいりました。現在、事業セグメントは、不動産・ホテル・海外の主要3セグメントとその他の4つに分かれています。



主な事業内容：事業投資、グループ経営管理

＜各セグメントの主な事業内容＞

不動産事業	ホテル事業	海外事業	その他
レジデンス事業 ビルマネジメント事業 賃貸仲介事業 売買事業	成田ゲートウェイホテルの所有・運営 倉敷ロイヤルアートホテルの所有・運営	海外投資事業 広告代理店事業	車載端末システムの開発・販売 企業再生再編 中華麺等の製造・販売

＜主な国内グループ会社＞



＜主な海外グループ会社＞



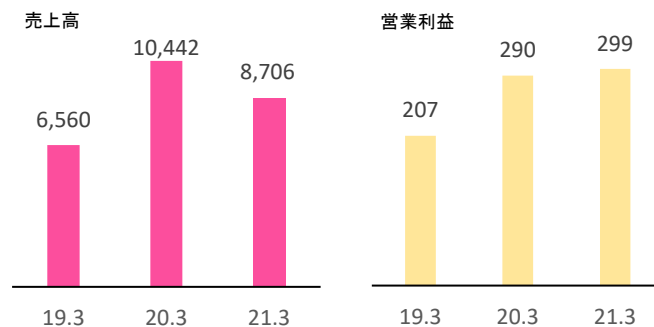
セグメント業績について (単位：百万円)

※前連結会計年度末より、セグメント間取引の調整方法を見直し、事業セグメントの利益の算定方法を変更しています。なお、19.3の数値のみ、変更前の算定方法で作成しています。

■不動産

事業内容：レジデンス事業（リーシング、賃貸管理、マンション建物の受託管理）、不動産売買事業

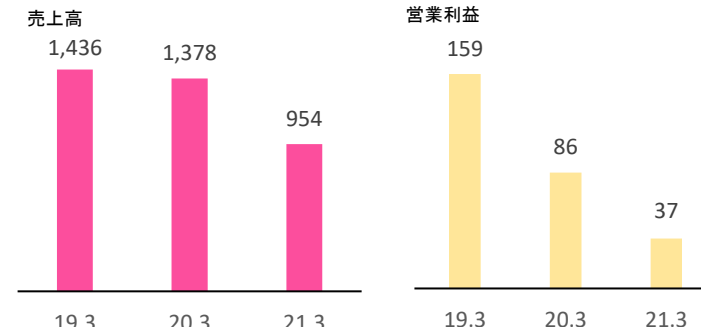
- ✓ レジデンス事業における管理戸数が引き続き高水準を維持、コロナ禍において賃貸借契約の更新率は増加
- ✓ 不動産売買事業における取引が対前年同期で大きく減少



■ホテル

事業内容：ホテルの保有・運営

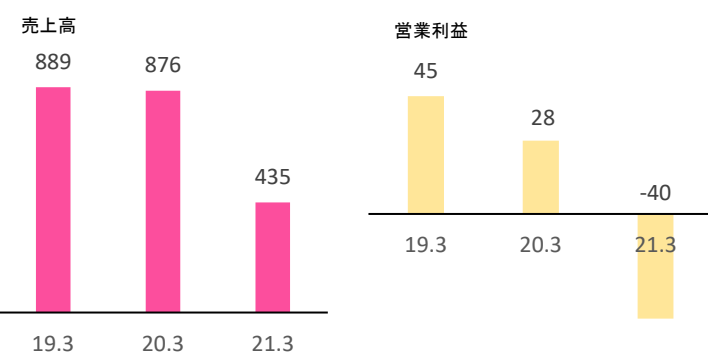
- ✓ 成田ゲートウェイホテルは、新型コロナウイルス感染者の無症状者・軽症者を2020年4月より継続して受け入れ
- ✓ 倉敷ロイヤルアートホテルは、2度目の緊急事態宣言下においても、一定の需要が回復。2021年1月に「MAGO GALLERY KURASHIKI」がオープン



■海外

事業内容：インドネシアにおける広告代理店事業、アジア圏を中心とした投資事業等

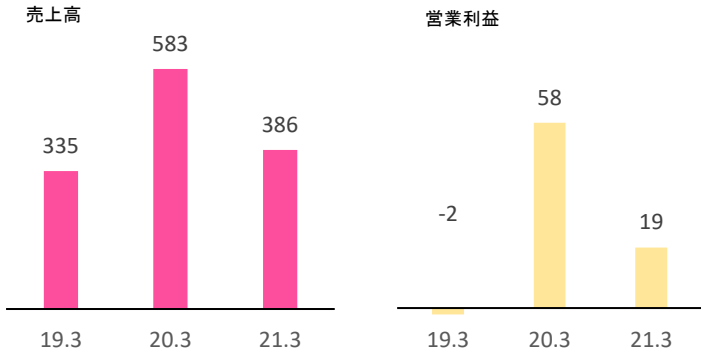
- ✓ インドネシアの広告代理店事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上が大幅に減少（40累計で20年1月～12月分の取込）
- ✓ 投資事業では、インドジェン・キャピタルとの業務提携に基づき、2件目の投資を実行済（インドネシアの不動産テックベンチャー企業）



■その他

事業内容：車載端末システムの開発・販売、M&Aに関するコンサルティング業務、国内における投資など

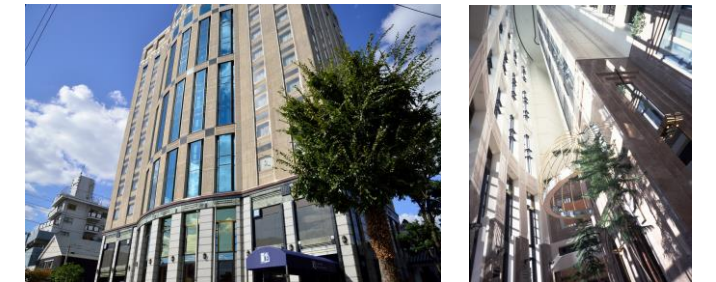
- ✓ モバイルリンク・増田製麺において、新型コロナウイルス感染症の影響から受注が減少した結果、売上・利益ともに減少
- ✓ セグメント利益外で、持分法による投資損失60百万円を計上



グループ会社紹介～倉敷ロイヤルアートホテル～

倉敷ロイヤルアートホテルは、2014年6月に当社グループ入りした、倉敷観光の中心となる美観地区の入り口に位置する客室総数71室のホテルです。大理石を贅沢に使った吹き抜けエントランス、江戸時代の蔵を改装したレストラン「八間蔵（はちけんぐら）」や、瀬戸内の山海の幸をご堪能いただける日本料理「倉敷」など、お食事も充実。婚礼の場としてもこれまで多くご利用いただき、コロナ禍でも安心して宴を催せるよう感染対策を万全にご対応しております。

2021年1月16日（土）には、ホテル地下1階に、美術家・長坂真護氏の作品を展示・販売するギャラリーMAGO GALLERY KURASHIKIがオープンしました。アフリカ・ガーナに投棄された電子ゴミを価値あるアート作品に再生して販売し、売上による資金で、2030年までに現地にゴミリサイクル工場の建設を目指す長坂氏は、アート業界を超えて、日本におけるSDGsのトップランナーとしてビジネス界からも注目されています。長坂氏が手掛けた衝撃的で美しい、唯一無二の作品をご観賞いただき、さらにご購入もいただけるギャラリーですので、ぜひお近くにお越しの際はお立ち寄りください。



ホテル外観 エントランス



ホテル地下1階のMAGO GALLERY KURASHIKI



オープニングセレモニーの様子（中央が長坂氏）

ニューストピックス

■インドネシアの不動産テックベンチャー企業に出資

当社は、2021年2月に海外子会社 Striders Global Investment Pte. Ltd.（シンガポール）を通じて、インドネシアで不動産管理プラットフォームTravelioを運営するPT Horizon Internusa Persada（以下：Travelio）（本社：インドネシア・ジャカルタ、共同創業者兼CEO：Hendry Rusli）の株式を取得しました。Travelioは、インドネシアに拠点を置く住宅用不動産管理会社で、オーナーとテナント、その他不動産管理関連のサービス提供者をワンストップでつなぐ独自のオンラインプラットフォーム「Travelio」を構築し物件を管理しています。今回の投資をきっかけにして、当社子会社で不動産事業を展開する株式会社トラストアドバイザーズの海外展開やDX化も推進してまいります。



Travelioの経営陣

■Sustainable Innovation Labへ第一弾メンバーとして参画

当社は、2021年5月、Next Commons Lab（代表理事：林篤志）が主宰する社会課題解決に向けたイノベーション・プラットフォームとなるSustainable Innovation Lab（以下、「SIL」）に第一弾メンバー（ベーシック会員）として参画しました。SILとは、サステナブル・イノベーションへの取り組みを社会に実装し、変革（システムチェンジ）へとつなげていくための学びと共創のプラットフォームです。これに先立ち、2020年10月より、ストライダーズ社内ではSDGsについての知見を深めるためのSDGs勉強会を開催しており、今後はグループをあげて、持続可能な未来社会のためのソリューション開発と実践を進めてまいります。（SILのウェブサイト <https://sustainablelab.com/>）

